



海上自衛隊 齋藤 聡 幕僚長からのメッセージ

すでにホームページにも掲載しましたが、<https://x.gd/4Q6Ar> 6月12日（木）に本校37回生で現在の海上自衛隊海上幕僚長である齋藤 聡（さいとう あきら）氏が本校を訪問しました。

その時に、南極の氷（数万年前の空気を含んでいる）を母校に送るので、生徒のみんなに触れてもらいたいということと、改めて高校生に向けたメッセージを送りますということとを、約束していただいていたいました。

南極の氷については、本校生向けの自衛隊志望者対象説明会の際、実際に触ってもらったり、各学級で触ってもらったりしました。（今も事務室の冷凍庫で保管しています）

南極の氷

南極大陸は、周辺の棚氷を含めると日本の37倍の面積があります。

この広大な大陸は、平均約1,900mの厚さの氷床で覆われており、一番厚いところでは約4,000mもあることが知られております。もし、南極の氷が融けると海面が現在より70mも上昇し、東京をはじめ大都市は全て海の底に沈んでしまいます。

氷床は、積雪が圧密されてできたもので、数万年かかって沿岸に押し出されてきます。

氷床の厚さ
最大 約 4700 m
平均 約 1900 m

氷山 棚氷 氷山 棚氷

南極大陸
(面積:日本の37倍)

南極の氷が全て融けると一約70mの海面上昇



南極地域観測協力のためにお世話になった方々に、南極の雰囲気少しでも味わって頂こうと、「しらせ」乗員が輸送業務の合間を見て、昭和基地近くの氷山から切り出し、持ち帰りました。

この氷は数万年前に南極大陸に降った雪が固まったもので、白く濁って見えるのは、積雪が生じた当時の空気が含まれているからです。氷をグラスに浮かべ、そっと耳を傾けてみてください。気泡がプチプチと音を立て、数万年の抑圧から解放され、再び大気に戻る瞬間の心地良い響きが聞こえてきます。



また、いただいたメッセージについては、以下のリンクからご覧ください。

<https://sasebominami-h.education/21865421107880b1b052e9574f3119e3>